

会 議 記 録

会議名	第1回 芦別市総合庁舎整備に係る市民検討委員会
-----	----------------------------

日 時	令和元年12月5日(木) 午後6時00分から午後7時45分まで	場 所	市役所 3階第1会議室
-----	------------------------------------	-----	----------------

第1回 検討委員会の内容について、次のとおり記録したものである。

会 議 の 概 要

1 開会

危機対策課長

2 市長挨拶

年度末のご多用の中、また、仕事後のお疲れの中ご出席いただきありがとうございます。平素より、市政・まちづくりなどに対し、ご指導・ご協力いただき厚くお礼申し上げます。

さて、昭和44年に建設した市庁舎は、築後50年経ち、経年劣化から建物・設備等の老朽化が進んでいるところです。加えて、耐震基準を満たさず、このために震度6強の地震に対しては倒壊の恐れがあります。更には、高齢者・障がい者に配慮したバリアフリーやユニバーサルデザインなどへの機能も備えていないことから、来庁する市民の皆さんに大変ご不便をおかけしているところです。

この度、市庁舎の整備方針について本格的な検討に着手するとした次第で、これまでも、市の若手職員で組織する庁内検討委員会で一定の検討を行っているわけですが、同時に元となる基本構想・基本計画の策定に向けて、市民の皆さんの意見やアイデアをいただくために、本委員会を設置するに至ったわけであります。

その意義を皆様にお引き受けいただくことになり、ご多忙にもかかわらずご快諾いただきましたことに重ねて感謝申し上げます。

本委員会では、建替えを含めた整備方針や規模、機能についてもご意見を賜り、いただいた意見を今後、基本方針や基本計画に反映をさせていただく考えであります。

なお、建替えが必要との結論に至った際には、国におきまして東日本大震災、あるいは熊本地震等の発生を踏まえ、自治体の防災拠点として災害対策・復旧対策の中心となる庁舎機能の向上促進を図るため、有利な財源措置として制度設計されている市町村役場機能緊急保全事業の活用を考えているところではありますが、この事業の適用については令和3年3月までとなっていて、それまでに庁舎整備の実施設計に着手することが必要とされています。

このため、予定としてはスケジュールがタイトになりますが、明年1月を

めどに基本構想、2月をめどに基本計画の作成につなげていければと考えているところですが、拙速な取組だけは避けたいと思っていますので、ぜひ、慎重かつ活発な議論をお願いいたします。

大変ご苦勞をお掛けしますが、よろしくお願い申し上げます。

3 自己紹介

事務局・出席者の順で自己紹介を行った。

4 資料説明

最初に検討委員会の位置づけとして、「芦別市総合庁舎整備市民検討委員会設置要綱」第1条の目的、第2条の検討事項に記載しているとおおり、これから市が作成する総合庁舎整備に関する「基本構想」、「基本計画」に関し、意見及びアイデアを出していただく為に設置したことを説明。また、基本構想や基本計画を決定するわけではなく、その中に盛り込む内容についてアイデアや意見をいただくということを説明した。

なお、会議の任期期間については基本計画までとしていることを伝えた。

以下、説明資料に基づき説明。

■資料1

資料に基づいた説明の後下記について補足。

「市町村役場機能緊急保全事業」については、熊本地震を受け、業務継続が確実に行われるためには業務を行う場である庁舎（行政の中核拠点）が発災時においても、有効に機能しなければならないことが再認識され、庁舎の耐震化が未実施の市町村においては、発災時に業務継続に支障が生じるおそれがあることから、これらの庁舎の建替えを緊急に実施するため、平成29年に創設されたものである。

事業の対象となるのは、昭和56年の新耐震基準導入前に建設され、耐震化が未実施の市町村の本庁舎の建替事業となっており、令和2年度いっぱいまでの事業である。

この、建設に最も有利な地方債である「市町村役場機能緊急保全事業」について、通常は期限までに建設を完了する必要があったが、令和3年3月末までに実施設計に着手した場合は対象とするという見解が示され、近隣の市町村でも建設する動きが加速。芦別市においても、庁舎の整備は必要であることから、令和3年3月までの実施設計の着手に間に合うよう努力していくということになり、10月1日で専門の課を設けたところである。

庁舎の整備については、設備の老朽化、耐震化を満たしていないことから整備が必要な状況にあり、新築以外の方法も検討した過去の流れと、建設にあたって現在有利な制度があることを踏まえ新築を目指している。

しかし、有利な制度があっても多額の資金を必要とするので、建設にあたっては、財源についてもどのような方法があるのか検討をしているところである。

皆さんからアイデアや意見をいただくとともに、別に組織している市の若手職員で組織する庁内検討委員会からも意見やアイデアをもらい、基本構想、基本計画を策定し、議会とキャッチボールしながら完成に向けていくことになるのでご協力願います。

■資料2・3について説明

—ここまでで質問・意見を募った。

○説明を聞いて庁舎の建替えをしなければならないということについては、そうだなと思う。やり方についてどうこう言うつもりはないが、人口減少の問題、今から10年後には1万人を切るぐらい、このままいくと2045年には7千人台ということになる。建物の耐用年数を70年とした場合、人口減少のスピードと様々な兼ね合いが合わなくなると思う。

その時には、各地方自治体の生き残りも含めてどうなっていくかわからないという問題があると思う。

人口が減る中で、職員の減少であるとか、サービスを受ける住民の数も減るだとか、そういうことも現実的に考えられる。また、ITとかの進展によって市役所に来なくてもよいという可能性もあるだろう。印鑑証明がコンビニで手続きできるなど、これからも様々なことができるようになると思う。

思うのは、庁舎の話を検討しはじめたところに病院の問題は出ていなかったのではないかということ。急きょ国が様々な情報を出して市・市民とも心配な状況になっている。今後の施策の向き方によっては病院をどういう風に残していけるかも難しくなっている。

庁舎に関連して病院をうまく使えないかと考えた。病院を修繕してとなると新築と同様な予算が必要ということであるが、病院を庁舎として、病院をこぢんまりと建て直すという手もあるのではないか。

今までの病床数を維持できるかを含めて、そういう先を見据えた検討も織り交ぜて行く必要があるのではないか。

金融機関の職員なので、一番心配しているのは財源の問題である。もちろん、ハード面も災害時の拠り所になるので大事である。ただ、人口が減っていった中で、耐震が70年も100年も見通せる建物があったとしても、その間に財政が厳しくなり、ソフト面である行政サービスが低下するならば、住みにくいということになって人口減に拍車がかかるということ予測しなければならない。

この問題は、10年、20年、30年先、この間に世の中は相当変わっていくので、慎重に手を打たないと、耐震性のある建物は出来上がったものの、その後、病院の問題、財政の問題が生じて、言葉は悪いが夕張のようになっては困るということであり、市民が何を望んでいるのかという声を十分聞いてほしい。これから芦別で生活していく若い人にもどう考えているのかと目を向けるべきと考える。

現状の案に異論はないが、これから詰めていくうえでこういったことを考えた方がよい。

金融の者として単純に融資を考えた場合、企業が工場の新設をしたいとなった時に、当然今言ったような着眼点から判断していく。早急に進めて行かないという事情はわかるが、これまで申し上げたことを総合的に考えると、本当にどうやって行くのか、10年、20年、30年先の市民のためになるのかということをお願いしたい。

回答を求めるわけではないので、先に進めてほしい。

・総務部長

庁舎で検討するにあたって、この先10年20年30年先の芦別がどうなっていくのか、庁舎にどのくらいの職員がいるのか、人口がどのくらいになるのか、そのような事を含めて検討を進めてきている。

その中で、資料に建替、長寿命化、既存施設の活用と記載しているが、検討過程で職員から病院を活用してはどうかという意見もあり、3つ記載したところである。

小林委員からいただいた意見のように委員の皆さんもざっくばらんに発言してほしい。これをもって市長に提言書として答申するわけではない。

最終的には、市が議会と相談のうえ判断することになるが、その参考とするために本委員会を設置しているので、率直な意見を出していただければと思う。

○現状、3つの方向性とあるが、市は新築をメインとして進めて行くのか、フラットに3つの中から模索していくのか。

・危機対策課長

有利な財源があるということで新築をメインに考えている。先ほど話しがあったが、計画ができてどのくらいの予算がかかるか出た時に財源がないと建てられないし、未来のことも考えなければならない。

意見をいただいて総合的に判断した時にどうなるかわからないが、現状では有利な条件があるうちに進めたいというのが本音である。

○35億という概算の予算が出ているけれど、これは現在の庁舎の規模を維持することとしているのか、縮小を考えているのか。複合的に他のものを入れていくとなっているが、それを含めて今の規模なのか。

そもそもコンクリート造にしなければならないのかということも検討する必要があるのではないかと。公営住宅は地産材を使って建てている。林業を推していこうという流れがあるにも関わらず、RC造で市役所を新築することが、本当にいいのかという部分がある。

自分が建設業ということもあり、これだけ税金を使って市の業者がほとんど入れない、外部にお金が出て行ってしまうということもある。

木材であれば、耐震を満たすことも可能であるし、3階・4階建てにする必要があるのかということも検討していただきたい。

・危機対策課長

35億は仮であり、ここ最近建てられているものを参考に単価を出している。木造に関しては意見として頂戴する。

・都市建設課長

規模に関しては、人口減と将来の職員数を見込んで一定程度小さくしている。現在の庁舎は5,900㎡ぐらいであるが、10年後の人口を考慮して4,000㎡程度としている。さらに、例えば複合施設の一つとして、既存の施設とくっつけたらという考えもある。既存施設の会議室を共有で使うことを考えて縮小したものであるが、建てる場所によっては叶わないことになる。職員数

が同程度の市町村の庁舎を参考に4,000㎡程度として概算を出している。

木造も考えたが、RCの方が断然安価であった。建設場所にもよるが、木造であれば、いいとこ2階建て、3階建てはLCCやっても難しいのではないと思うが、木造でもRCと合わせて耐震化した施設を視察している。

そういったことを含めて、皆さんから意見をいただいて再検討することとしている。35億はベースとして出していることを理解してほしい。

○他の市町村の視察など、参考にしているものはあるか。

・都市建設課長

岩手県の紫波町がカラマツとRCの組み合わせだったので、一番参考になるかと視察に行った。

しかし、規模的、額的、人口規模が違うことなど、芦別のベースで考えた時にコスト的にどうなのかと思った。また、建てる方式がPFIという形でやっていたので参考にしたいというのもあったが、企業の方はわかると思うが、芦別市でPFIは難しいという判断になった。

○財源の資料もいただいているが、複合で図書館とか老朽化している施設を集約しようとするならば、複合化しない場合、その施設にはこのぐらいの修繕が必要で、また建替となるとこのぐらいの予算が必要でとかの見せ方ができれば全体的な効果があると思う。

例えば商工会議所も古い建物であり、それらを含めてやればキャッシュアウトしていくものが抑えられる。そういったことが資料に盛り込まれるとわかりやすいものになると思う。

○建替を考えているということであるが、建てる場所はある程度考えているのか。

・危機対策課長

そのことについてもこの委員会で意見をいただこうと考えている。

○たくさんの意見があり複合化として他の機関を入れるという意見もあったが、せつかく新しくするのであればみんなが出向ける場所になればと思う。高齢者が増えていくことから、今でもそうであるが行くまでの交通手段がないので、そういうことも考えてほしい。

・危機対策課長

庁舎に求めるものとかの意見をこの後のグループ討議で出していただくので、率直な意見を出してほしい。

○耐震化の場合は仮庁舎が必要とあるがどこになるのか。

・都市建設課長

正直に言ってまだ考えていない。

仮庁舎を建てるとしたら、この庁舎から離すわけにいかないなので、駐車場

にするとか、農協の跡地になるのかと思う。しかし、簡易的なものというわけにいかず、システムなどの機能を持っていくことが大変になる。本庁舎と機能面でつながなければならないという部分でいえば、仮庁舎はお金がかかるので難しいととらえている。

栗山町だったと思うが、耐震化について聞いたところ、工事が始まるとうるさくて電話が聞こえないため、音が出る工事は金額を足して夜中にやってもらうことになったそうである。そういったこともあり、通常の業務をしながらの耐震化は難しいと判断し、仮庁舎が必要としたところである。

■グループ討議

A／委員6名、総務部長、総務課長、危機対策課長

B／委員4名、都市建設課長、財政課長

①新庁舎に求めるもの②建設場所 についての討議とした。

それぞれの項目ごとに意見を付箋に書いてもらうこととしたが、Aグループはそうようになったものの、Bグループは途中からディスカッション形式となった。

《Aグループ》

- ・建設場所は、誰でも利用でき交通機関の良い場所が望ましい。いろいろな用事が庁舎近辺でできると、足の悪い方々にいいのではないか
- ・完全バリアフリー化、エレベーター、エスカレーターの設置
- ・障がい者が利用しやすい施設。入口・トイレ等車いす対応
- ・トイレや窓口に点字の表示、音声もあればよい
- ・土地はたくさんあるので平屋で建てたらエレベーターはいらない
- ・スーパーやコンビニ、飲食店等のテナントを入れる
- ・銀行・信金の窓口の設置
- ・休憩所などのスペース
- ・気軽に来られる場所にスペースを設ける
- ・音声案内
- ・子供たちが庁舎に興味を持つようミニシアターの設置
- ・自由に弾けるピアノや各種楽器があり、ミニコンサートができるスペースの設置
- ・トレーニング施設の設置及びインストラクターの配置。体力健康の維持・認知症対策
- ・図書館が入っていると子供を連れて手続きに行きやすい
- ・人口減少、高齢化、少子化となっていくのが現実だと思うので、さまざまな施設やイベント等で利用できる庁舎
- ・デイサービスの設置
- ・人口減少を踏まえた庁舎の維持
- ・街から近い場所に高齢者障害施設を
- ・芦別を感じられる建物
- ・市内、建設業協会一体で建てる方法はないのか。交通の便、中央バス、きらきらバス乗車できるように

《Bグループ》

- ・金融機関にも庁舎に入ってもら
- ・図書館などと複合
- ・図書館は滝川市を参考に
- ・商工会議所も複合し、民間企業を含めた資金調達をすること
- ・エレベーターなしは考えられない
- ・建替えるなら市民の目線で場所を考えてほしい
- ・市民は窓口対応や交通機関などの利便性を求める
- ・スマホが活用できるようになって、庁舎にいかなくても良い時代が来ることになるのではないか
- ・有利と言って7億を得るために急いでやっちゃって、将来大変なことになってしまうのではないか。

病院問題などを含めて施設のコンパクト化を進めるなど様々なことを実施することで、7億を圧縮できるようになるならば良いという考えもある。

目先としてもらえるものということはある。しかし、時間があって2年間考えられるとかではなく、来年の2月というのはいかがなのか。個人的には賛成であるけれど将来に禍根を残すようなことになるかと…。

他の自治体も進めているが、まかり間違ってしまうと、どうにもならなくなって、サービス向上を目指して建設した建物によって、逆にどんどんサービスが低下することになってしまう。ソフトが低下する事態になっては行財政改革の縮充どころではないということに突き当たってしまう。

今の市民に対しての利便性も重要だが、未来に対しての責任を果たさなくてはならない。それが30年後だとかではなく、10年後にどうなっているかわからない中、財政状況を踏まえると慎重に判断して行かないと…。そこが頭のひねりどころでもあるのだが。

・芦別は広いので来た時に用事がいくつも足せるのが市民にとっていいこととは思いますが、委員として2月に基本計画に移行してどんどん進めて行かなければならないとなると気が重いのと思ってしまいます。財源が苦しい中、これまでも建替えという話は聞いていたが、制度があるから飛び乗るのかと、そうではなくてもっと前から市民の声を聴いて理解を得られているのであれば、10年20年先もここに来れば用が足せるとか、もっと盛り上がってみんなが良かったねとなる。

頼城に住んでいたことがあり、市内に出てきて用事を足すとなると大変であった。そういうことを考えるとここから動かせないと思うが、来た時にいろんな用事が済ませられることが利便性だと思う。

・時間がないと発言したが、時間があっても様々なことが出すぎてまとめられないということもある。ただ、短期間であるならばもっと濃密な話をしていかなければならない。高齢者だけの話を聞いていればそうなるのかもしれないが、今の子供たちが成長していったときに、行政サービスを受けながら拠り所となる庁舎。そういうものの姿がどのような形なのかを描く必要があると強く思っている。

まかり間違ってしまうと大きな負担になってしまい、「なんであそこだけ立派な建物が残っているのだろうか」となってしまったら大変である。

- ・赤平は耐震と聞いたが。

- ・（都市建設課長）赤平は耐震化だが、建物がしっかりしていた部分もあり、大幅な工事ではなかった。芦別の場合は、1階から3階までブレスや耐震壁を入れなければならない。
- ・目玉の公共事業となることには賛成であるが、その後、苦しくなって事業ができなくなってというのは…。事業者はバランスよく安定的に仕事がある方がいいと思うだろう。

今回は、建設場所まで行かなかったのが次回とする。また、今日の意見以外どのような事でもいいので思いついた場合はお渡ししたペーパーに書いて次回提出してほしい。

（終了）